

B-61 枕素材の熱移動特性について

神奈川県工試 ○尾崎晶子 中村邦雄 小茶大 松川哲哉

〔目的〕枕素材として一般に使用されているそばがら、木綿わた、化繊わた（ネトロ）、キニビテックス（発泡ポリスチロール）等の使用性能として、主として、熱移動特性から、検討を行なった。

〔実験方法〕

枕素材は、それぞれ上下を綿ネترون混紡布（50:50）で布はりしたサンプルケース（15×15×5 cm）に、無荷重状態で、ほぼ一杯になる程度入れ、外気環境として温度は25℃、湿度は30～80%RHの範囲とした。熱移動特性としては、市販の保温性試験機を用いた。また、比較検討のために、各素材の透湿性、吸湿性をも検討した。

〔実験結果〕

JISの規定による保温率を用いるとサンプル特性の差を小さくしてしまう関係から、単位時間内、夫々のサンプルを一定温度勾配に維持するのに必要なエネルギー量を示した。どの温湿度条件であっても、そばがらが最も、熱伝導性が高く、キニビテックスは著しく小さい。いずれのサンプルとも、外気環境の温湿度の影響と大きく受けているのがわかる。